



平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年11月12日

上場取引所 東

上場会社名 愛眼株式会社

コード番号 9854 URL <http://www.aigan.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 下條 三千夫

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部長

(氏名) 下 祥造

TEL 06-6772-3383

四半期報告書提出予定日 平成26年11月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第2四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	8,390	△2.5	△65	—	△30	—	△106	—
26年3月期第2四半期	8,601	2.9	△115	—	△64	—	△249	—

(注) 包括利益 27年3月期第2四半期 △106百万円 (—%) 26年3月期第2四半期 △215百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	△5.49	—
26年3月期第2四半期	△12.83	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第2四半期	18,270	15,490	84.8
26年3月期	18,568	15,596	84.0

(参考) 自己資本 27年3月期第2四半期 15,490百万円 26年3月期 15,596百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年 3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,389	2.3	77	—	136	—	28	—	1.47

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 —社 (社名) 、 除外 —社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期2Q	21,076,154 株	26年3月期	21,076,154 株
② 期末自己株式数	27年3月期2Q	1,666,624 株	26年3月期	1,666,514 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期2Q	19,409,614 株	26年3月期2Q	19,409,704 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、消費税率引き上げに伴う経済政策の下支えや企業の人手不足による雇用環境の改善がみられるものの、円安による輸入価格上昇、新興国を含めた景気低迷による輸出の伸び悩み等で先行きは不透明な状況が続いております。個人消費につきましても、消費税率引き上げの反動と実質所得の減少による節約志向、また夏季の天候不順などが要因で反動減による落ち込みからの回復が緩慢であります。

このような状況のもと当社グループは、事業構造改革「NEW愛眼プロジェクト」を推進し「あなたにAnswer!」を掲げ、お客様の眼鏡に関するお悩み、ご不満を丁寧に解決しながら、ライフシーン毎に有益なアドバイスやサービスの提供に努め、顧客の皆様からの支持信頼アップを図ってきました。

当第2四半期連結累計期間の経営成績は、消費税率アップに伴う先買い需要の反動減等により、売上高は8,390百万円（前年同四半期比2.5%減）となりました。売上総利益率が0.7ポイント改善したことや、改装店舗が自社大型物件を除き一巡しつつあり減少し新規店舗の開設も1店舗となったことで消耗品費等への支出が減少したため、営業損失は65百万円（前年同四半期は営業損失115百万円）、経常損失は30百万円（前年同四半期は経常損失64百万円）、四半期純損失は106百万円（前年同四半期は四半期純損失249百万円）となりました。事業構造改革を推進し利益確保と一層のコスト削減に取り組み、営業基盤の強化に努める所存です。

当社グループにおける報告セグメントごとの状況は次のとおりです。

なお、前連結会計年度より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

[眼鏡小売事業]

当社グループは、「NEW愛眼プロジェクト」のもとで、メガネ一式価格「スマートプライス」での表示・販売を展開し、お客様の様々なニーズに対応し楽しく、充実したライフスタイルの実現をサポートする「アイスタイリング・サービス」の提供に取り組んでまいりました。本プロジェクトを着実に軌道に乗せるため、新ビジュアル・アイデンティティを導入、店名ロゴの変更、店舗のリニューアル等を実施し、コーポレートブランドの刷新を進めてまいりました。今期はプロジェクト達成に向け、各階層への販売強化の見直し、オリジナルシフトの推進、補聴器販売の強化、他業種への販売拡大の4項目を課題にし営業活動に取り組んでおります。

運営面と商品面に関しては、「おもてなし部」主導のもと接客力を充実するとともに、オリジナルブランドの「POCOP」やクールビズメガネ「クリアフィット」、子供用メガネ「ビバラキッズ」の新型製品、釣り用偏光サングラス「ストームライダー」、お風呂専用メガネ「FORゆ」のリニューアルなど順次市場に投入し、お客様の生活シーンに適ったアドバイス、提案に努めてまいりました。「FORゆ」などが話題となりテレビ、新聞、雑誌などメディアへの露出機会も増え広範に周知され、業種の枠を超えた取引へと展開し、新たな需要の掘り起こし、ニッチな市場への販路拡大を進めました。

店舗に関しては、「NEW愛眼」へのリニューアルが大型自社物件を除きほぼ一巡しつつあるものの、12店舗の改装を実施し明るく清潔感のあるイメージ作りを推進しております。

売上に関しては、前期末の消費税率引き上げによる駆け込み需要の影響を想定しチラシ、DMなどでのセール告知、クーポン実施や、眼鏡業界では唯一のTポイント導入など集客強化に取り組んだ結果、眼鏡、サングラス、補聴器で販売数が増加した一方、眼鏡販売単価が消費税率アップに伴う高額商品の先買いや購買意欲の減退の影響で前年を下回り減少しました。利益については、オリジナル品の在庫構成比率アップ、レンズ等の集中販売などで売上総利益率は改善しました。

この結果、眼鏡小売事業における売上高は7,961百万円（前年同四半期比2.3%減）、セグメント損失は13百万円（前年同四半期はセグメント損失57百万円）となりました。

[写真館事業]

写真館事業においては、例年上半期は季節指数も低く需要が減少するため、七五三、成人式、新入学の予約確保へ様々な販促ツールを利用した営業活動や、結婚記念、ファミリー集合等幅広い年代、階層の撮影写真にきめ細かく対応してまいりました。店舗に関しては、売上低迷が続く不採算店1店舗を休業しました。

売上に関しては、昨年オープンした近鉄あべのハルカス店などが好調なものの、休業や前期1店舗閉鎖の影響もあり、売上高は53百万円（前年同四半期比13.5%増）、セグメント損失は43百万円（前年同四半期はセグメント損失47百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は18,270百万円、負債合計は2,779百万円、純資産合計は15,490百万円となりました。前連結会計年度に比べ負債合計が192百万円減少し、純資産合計が106百万円減少した結果、自己資本比率は84.8%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当社グループの資金状況は、下記のとおりです。

現金及び現金同等物の当第2四半期連結会計期間末残高は、2,289百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動におけるキャッシュ・フロー)

営業活動におけるキャッシュ・フローは599百万円（前年同四半期は△13百万円）となりました。

この現況に至った主な原因は、売上債権の増減額466百万円、たな卸資産の増減額324百万円、仕入債務の増減額△137百万円によるものであります。

(投資活動におけるキャッシュ・フロー)

投資活動におけるキャッシュ・フローは78百万円（前年同四半期は197百万円）となりました。

この現況に至った主な原因は、定期預金の預入による支出△223百万円、定期預金の払戻による収入316百万円によるものであります。

(財務活動におけるキャッシュ・フロー)

財務活動におけるキャッシュ・フローは△34百万円（前年同四半期は△35百万円）となりました。

この現況に至った主な要因は、長期借入金の返済による支出△30百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、現在精査中であり確定次第速やかにお知らせいたします。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,428	4,972
受取手形及び売掛金	1,173	706
商品及び製品	2,772	2,431
原材料及び貯蔵品	28	42
その他	154	202
貸倒引当金	△11	△7
流動資産合計	8,547	8,348
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	6,739	6,648
減価償却累計額	△5,453	△5,398
建物及び構築物（純額）	1,286	1,250
土地	1,945	1,945
リース資産	4	29
減価償却累計額	△0	△0
リース資産（純額）	4	28
その他	2,510	2,449
減価償却累計額	△2,302	△2,247
その他（純額）	207	201
有形固定資産合計	3,444	3,426
無形固定資産		
リース資産	14	49
その他	60	93
無形固定資産合計	75	143
投資その他の資産		
敷金及び保証金	4,124	3,952
投資有価証券	1,491	1,608
その他	885	791
投資その他の資産合計	6,501	6,352
固定資産合計	10,021	9,922
資産合計	18,568	18,270

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	733	555
1年内返済予定の長期借入金	60	60
未払法人税等	127	73
賞与引当金	—	44
その他	1,084	1,060
流動負債合計	2,005	1,794
固定負債		
長期借入金	345	315
繰延税金負債	50	53
再評価に係る繰延税金負債	7	7
資産除去債務	356	348
その他	206	259
固定負債合計	965	985
負債合計	2,971	2,779
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,478	5,478
資本剰余金	6,962	6,962
利益剰余金	6,549	6,443
自己株式	△1,050	△1,050
株主資本合計	17,939	17,833
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	97	105
土地再評価差額金	△2,471	△2,471
為替換算調整勘定	32	24
その他の包括利益累計額合計	△2,342	△2,342
純資産合計	15,596	15,490
負債純資産合計	18,568	18,270

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	8,601	8,390
売上原価	2,797	2,672
売上総利益	5,803	5,718
販売費及び一般管理費	5,918	5,783
営業損失(△)	△115	△65
営業外収益		
受取利息	11	10
受取配当金	5	6
受取家賃	21	25
物品売却益	16	—
その他	38	26
営業外収益合計	93	68
営業外費用		
支払利息	2	2
固定資産除却損	18	4
賃貸費用	17	23
その他	4	3
営業外費用合計	43	33
経常損失(△)	△64	△30
特別利益		
投資有価証券売却益	4	0
特別利益合計	4	0
特別損失		
投資有価証券評価損	0	—
減損損失	140	26
特別損失合計	140	26
税金等調整前四半期純損失(△)	△200	△56
法人税、住民税及び事業税	49	50
法人税等調整額	△1	△0
法人税等合計	48	50
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△249	△106
四半期純損失(△)	△249	△106

（四半期連結包括利益計算書）
（第2四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日）
少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△249	△106
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	18	7
為替換算調整勘定	15	△7
その他の包括利益合計	33	0
四半期包括利益	△215	△106
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△215	△106

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△200	△56
減価償却費	96	118
減損損失	140	26
賞与引当金の増減額(△は減少)	△32	44
売上債権の増減額(△は増加)	227	466
たな卸資産の増減額(△は増加)	△181	324
仕入債務の増減額(△は減少)	△8	△137
その他	30	△103
小計	72	682
利息及び配当金の受取額	16	17
利息の支払額	△2	△2
法人税等の支払額	△102	△101
法人税等の還付額	2	3
営業活動によるキャッシュ・フロー	△13	599
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△407	△223
定期預金の払戻による収入	1,009	316
有形固定資産の取得による支出	△287	△49
有形固定資産の売却による収入	11	1
投資有価証券の取得による支出	△34	△108
投資有価証券の売却による収入	45	3
その他	△139	137
投資活動によるキャッシュ・フロー	197	78
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△35	△30
リース債務の返済による支出	—	△4
自己株式の売却による収入	0	0
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△35	△34
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	△1
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	152	641
現金及び現金同等物の期首残高	1,654	1,647
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,806	2,289

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間（自平成25年4月1日至平成25年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	調整額 (注) 2	合計 (注) 3
	眼鏡小売	写真館	計			
売上高						
外部顧客への売上高	8,150	47	8,198	403	—	8,601
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	40	△40	—
計	8,150	47	8,198	443	△40	8,601
セグメント利益又は損失(△)	△57	△47	△104	8	△18	△115

(注) 1 その他の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、卸売事業等であります。

(注) 2 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去6百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△24百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社の費用です。

(注) 3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	調整額	合計
	眼鏡小売	写真館	計			
減損損失	135	4	140	—	—	140

II 当第2四半期連結累計期間（自平成26年4月1日至平成26年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	調整額 (注) 2	合計 (注) 3
	眼鏡小売	写真館	計			
売上高						
外部顧客への売上高	7,961	53	8,015	375	—	8,390
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	39	△39	—
計	7,961	53	8,015	414	△39	8,390
セグメント損失(△)	△13	△43	△57	△0	△7	△65

(注) 1 その他の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、卸売事業等であります。

(注) 2 セグメント損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去6百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△13百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社の費用です。

(注) 3 セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	調整額	合計
	眼鏡小売	写真館	計			
減損損失	26	—	26	—	—	26

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

従来、報告セグメントが「眼鏡小売事業」のみであるため、セグメント情報の記載を省略しておりましたが、前連結会計年度より、「写真館事業」について量的な重要性が増したため、報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第2四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。